

順位	氏名（議席）	発言の要旨
12	藤田 哲哉（19）	<p>1. イングリッシュアドベンチャー事業の今後の展開について</p> <p>今年度、教育委員会の事業として、ALT（外国語指導助手）を中心にイングリッシュアドベンチャー事業が実施された。この事業は、ALTの実体験に基づき企画運営され、参加した児童生徒が市内にいながらにして海外での生活を体験できる実践的な英語学習として大きな成果を収めたと認識している。このような事業は、今後富士市が国際的な都市として発展するための鍵となるものであると思われる。そこで、以下当局のお考えを伺う。</p> <p>(1) イングリッシュアドベンチャー事業は、今年度の成果とその意義に鑑み、来年度以降も継続することを期待しているが、事業の継続について、いかがお考えか伺う。</p> <p>(2) 今年度の事業では、海外での日常生活を体験する利用者体験を中心とした英語学習が実施された。今後、仕事等の役割を担う側の立場を体験する内容を取り入れた学校教育活動を展開していくことについて、いかがお考えか伺う。</p> <p>(3) 本市が支援している体験学習事業「しくみ～な ふじ」について、来年度から産業交流部の事業として引き続き実施していくと伺っている。イングリッシュアドベンチャー事業についても市長部局と連携し展開していく可能性について、いかがお考えか伺う。</p> <p>2. 富士市立中央病院における看護師の自己研さんに対する支援について</p> <p>富士市立中央病院の一部の病棟において、看護師が自己研さんとしてアロマセラピーの習得に取り組んでいると伺っている。その学びを生かし、入院患者の精神的・身体的な苦痛の緩和と、QOL（生活の質）の向上に貢献することを目指し、アロマディフューザーが積極的に使用されているとのことである。大変忙しい業務の合間を縫って、患者のために自主的に勉強し、実践されている看護師の姿勢に対し、深く敬意を表する。そこで、この取組に関し、以下伺う。</p> <p>(1) 患者のケアの質向上に直結する自己研さんやアロマディフューザーの活用といった取組に対し、中央病院ではどのような支援を行っているのか伺う。</p> <p>(2) 病院からの自己研さんに対する支援は、看護師の専門職としてのモチベーションや病院に対する帰属意識を高める上で、どのような効果をもたらしているとお考えか伺う。また、今後のさらなる支援の在り方についての見解も伺う。</p>